

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者様の試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 顎骨形成術術後人工呼吸管理におけるレミフェンタニルの有用性の
検討：後方視的観察研究

研究の目的

顎骨形成術を受けた患者様は術後気道浮腫および遅発性気道狭窄が起こりやすいため、一般に手術終了後は気管挿管下に深鎮静管理されます。集中治療室における全身管理では鎮痛優先の鎮静が推奨されており、近年、作用時間がより短い医療用麻薬であるレミフェンタニルの使用が承認されました。

本研究では顎骨形成術を受けた患者様の術後人工呼吸管理におけるレミフェンタニルの有用性をカルテ情報を振り返って検討することを目的としています。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 令和7年12月31日

対象となる方： 2020年1月1日～2024年3月31日までの間に当院で顎骨形成術を受け、術後集中治療室で気管挿管下に深鎮静管理された患者様。

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、年齢や既往歴などの背景、術前の血液検査結果、術中および術後の出血量や使用した各種麻酔薬などを利用します。具体的には、対象となる方を術後鎮静薬の組み合わせに含まれる医療用麻薬の種類に基づき、レミフェンタニル群とフェンタニル群の2群に分類します。交絡因子を調整したのちに回帰解析などの統計学的手法を用いて上記項目を比較・検討します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者様/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者様の試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先

医学部附属病院麻酔科 医員 内田 達士
電話：0172-39-5113 内線：4886

